

第 13 回川と山のぎふ自然体験活動の集い 報告書

2016 年 3 月 23 日（木）

於 みんなの森 ぎふメディアコスモス（岐阜市司町）
考えるスタジオ

主催：川と山のぎふ自然体験の集い実行委員会

後援：岐阜県、岐阜市教育委員会



日 程	14:00	オープニングセッション（受付：13:30より）	
			< 催しの全体説明をします >
	14:30	「セッション1」	（分科会1. 2）
	16:00	「セッション2」	（分科会3. 4）
			（休憩 約30分）
	18:00	「セッション3」	情報交換会
	20:00	終了	

「セッション1」 （14:30-15:50）

●分科会1. 岐阜の宝を生かした活動

コーディネーター：田村明（朝日大学経営学部）・井田琢也（岐阜県自然環境保全課）

ゲスト：熊崎潤（飛騨小坂200滝）、平野彰秀（石徹白地域連絡協議会）、原令子（岐阜県シェアリングネチャー協会）、平工顕太郎（結の舟・清流オフィス）、伊藤来（名門カヤック大学）、興膳健太（猪鹿庁）、小寺春樹（山菜の里いび）、佐名敏巳（天空の茶畑）

山・川・滝・森・歴史・自然など岐阜の自然を生かした活動をしている人たちがいます。岐阜の良さを発信する人たちがどんどん増えています。そうした活動に全国各地から岐阜に来てくれた人たちも参加しています。

●分科会2. ものづくりを通して岐阜の素材を生かす活動

コーディネーター：小野敦（NPO法人グリーンウッドワーク協会）、長沼慶拓（岐阜県）

ゲスト：入江鐵夫（行灯工房）、栗谷本征二（栗くり工房）、小木曾賢一（森林たくみ塾）、野村純也（郡上割り箸）、酒井慶太郎（酒井産業）、浅野美香子（NPO法人岐阜県木育推進協議会）

今、自然豊かな岐阜県だからできる「ものづくり」が掘り起こされています。消え去ろうとしている「手仕事」や「伝承文化」を守る、昔の若者たちと、今の若人たちが活躍しています。

「セッション2」 （16:00-17:30）

●分科会3. 指導者・ガイドのプロ化

コーディネーター：北川健司（中部山岳ガイド協会）、山田俊行（トヨタ白川郷自然学校）

ゲスト：岩佐勝美（飛騨の森自然ガイド協会）、蟻原陽一（白山白川郷トレイルクラブ）、岩本さやか（飛騨山岳ガイド協会）、石際淳（中部山岳ガイド協会）

岐阜県には、公益社団法人日本山岳ガイド協会に加盟している54団体の内、4団体と1割ものガイド団体が登録され、全国に先駆けて自然体験指導者のプロ化が進んでいます。プロとしてガイド・指導

者とは、講師料の設定、保険や契約などの手続きや責任について、これらの問題をゲストと一緒に考えていきます。

●分科会 4. 子どもたちの自然体験を進める活動

コーディネーター：高屋良平（NPO 法人エヌエスネット）、河合高志（岐阜県恵みの森づくり推進課）

ゲスト 高見美茶（だんごむし）、浅野純一（大垣プレイパーク）、村瀬典康（環境教育事務所エム企画工房）、千葉篤志（ガイアニック）、初音美奈（ぎふ☆森のようちえん）

「森のようちえん」、「プレイパーク」、「冒険あそび場」、「放課後ランド」岐阜県各地の森や公園でさまざまなコンセプトの活動が広がっています。岐阜県内では子供だけで参加できるキャンプ活動など催しも盛んに行われています。多様な活動団体が一堂に会し、子どもの活動のあり方について一緒に考えます。

「セッション3」 （18：00－20：00）

●情報交流会（無料）

いろんな活動をする人が集まって交流する時間です。ここからでのつながりがあなたの活動を拓けます。新しいネタと活力を充電してください。各自で食べ物・飲み物を持参して（場内にはローソンやスターバックコーヒーもあります）気軽に話し交流しましょう。食べ物、飲み物などの差し入れ大歓迎です。（待っています！）

さらに延長してのトーク会場も用意しています。

実施記録

分科会 1 岐阜の宝を活かした活動

■イントロダクション：田村先生

岐阜県のエコツーリズムのこと

マーケティングの理念より

…人間の共通のことは何か？

情報の発信源は、広報や新しいものに敏感な人。→全体の10%・火付け役になる。これが一般に広がり、続くことが難しい。

なぜ？→上記の人たちと、一般の人の求めている価値が違うから。

お客様の求めているものを提供できるか？お客様に満足していただけるガイドング・ツアーを提供できるのか？

■コーディネーター自己紹介：田村先生(朝日大学)、井田さん(岐阜県, 環境保全課、エコツー)

■発表：NPO 法人飛騨小坂 200 滝 熊崎さん…岐阜の宝物第一号認定

活動紹介…昨年10周年を迎えた。地域に滝がたくさんあるので、ガイド・ツアーを始めた。

滝めぐりをゾーン分けしてツアーしている。

ただ歩いて滝をみるだけでなく、カフェツアーや、ハンモックなどを取り入れたツアー。

金額を上げたので、入込数は減ったが、満足度を上げた。ガイド不足、高齢化が問題。

田村先生コメント：金額を安くするのはダメ。ガイドツアーにはお金払わないけど、食べることには来る。そしてリピーターにつながる。

■発表：NPO 法人猪鹿庁(メタセコイヤの森の仲間たち) 興膳さん

活動紹介…冬の収入源を考えることから始まった。狩猟やナイフ作りなどは人気のツアー。

獣害対策活動。鹿の個体数増加が問題。獣害対策のアドバイス(獣塾)。

■発表：カヤック大学 伊藤さん…ボート選手から地元岐阜で体験活動。

活動紹介…初心者や子どもメインのカヌー体験活動。

ナイトカヤック・ウォーターフェスティバル・婚活など。

カヤックを使った清掃活動。(地域貢献)。障害者のカヌー体験。…シットオンカヤックの転覆性の低いのでできる。

その他：地域の紹介のためのネットワーク作り。

田村先生コメント：自分のことだけだとお客さんは飽きてしまう。お客さんの満足度をあげるために、地域ぐるみ、同業者ぐるみでやると、次につながる。相乗効果を生む。

■発表：石徹白地区地域づくり協議会 近藤かなさん

活動紹介…石徹白地区紹介。昔から白山信仰の町。白山に登る方を宿でもてなし、次の日ガイドする。

いとしろアウトドアライフビレッジ…石徹白で活動する団体の情報を1つにまとめた団体の総称。

山と川をつなぐ旅…ただアウトドアをするのではなく、昔の地域の人がどうやって自然と暮らしていたかにつながっているかを知り、体験する。

田村先生コメント：よそ者が、地域のよさを発見できる。

■発表：岐阜県シェアリングネイチャー協会 原さん

活動紹介…自然体験とゲームを繋げるところから始まっている。地域の中で、得意分野のある人が繋がって、活動を広げている。

孫を見て、自然と一体になっているのを見て、嬉しくなった

田村先生コメント：時間と場所と体験で、長期記憶につながる。遊びの中で大切な記憶として残す活動をする。

■発表：結の舟・清流オフィス 平工さん

活動紹介…天然鮎を捕る漁師。現在、現役世代では、それを生業としている人は0人。県のエコツアーリズムを広めるための活動をしていたのもあり、漁船を活用したエコツアー体験をしている。

伝統工芸の継承、若者に体験してもらう。→スイーツを通して若い女性をとりこむ。

単価をあげることに気を配った。

天然鮎の地元消費をあげるため、地産地消を推奨するお店を計画中。

水辺の体験活動、安全面を広げる活動。

田村先生コメント：長良川の綺麗さは、外国人には刺激的。岐阜の魚を食卓へ。

■発表：NPO 法人山菜の里いび 小寺さん

活動紹介…現在は、山菜や実をとっても、調理法が解る人が少ない。自然の資源を使用する方法も知らない。薬草文化も残っている。その文化を伝えたい。

また、人口減少が顕著なため、(現在集落人口15人)、集落維持・薬草文化伝承が急務。

獣害問題も課題になっている。生態系の保護。

地元の高校生と協力して、薬草クッキーの商品化。

田村先生コメント：ハーブや薬草が今ブーム！自然の薬味もたくさんある。

京都の摘み草ランチが高級。→岐阜の草、厄介者でさえも、都会の人にとっては高級。いかに価値をあげるか！工夫しだいで価値のあるものになる。岐阜の食文化を活かそう！新商品は価値が高い。

■発表：天空の茶畑 佐名さん(代理で小寺さん&田村先生)

活動紹介…在来茶。モザイク植え。機械じゃできないような、複雑な茶畑。

在来茶の根は2mくらいなので、急斜面の地域の土砂災害を防いでいるのではないかと。先人の知恵。

萱場と杉の植林。先人の知恵により対策できていたものが、現代の政策でつぶしている。鳥獣被害や自然災害など。

■質疑応答

Q 利益のこと。通年ものじゃないのはどうしている？それ1本で生活できるのか？

A [天空の茶畑] 在来茶の消滅の危機から、存続させるためのPR。そこから観光客などを取り組む。

[田村先生コメント] 若い人たちが食べていくためにどうすればいいのか。存続させるためにはどうするのか。

エコツアーで大切なことは、サービス業との連携でお客さんを集める。情報アンテナのある人ではなく、一般客を取り込むには、手軽なもの。心を掴みつつ、地域にお金を落とすことを考える。

お花は話題になる。SNSは更新しないとダメ。

1 井田さんよりゲストへの質問

Q リピーターを取り込むために。

A [小坂の滝] また来たいと思わせるための工夫。人・コースバリエーションなどを駆使している。はがきを出す。

[猪鹿庁] 人にスポットをあてる。その人にまた会いたいと思わせる。個性を生かす。自分たちが楽しいと思うものをやり続ける。新しいことをやりたいメンバーも多いので、それもやる。SNSの活用。

[カヤック大学] リピーターしかできないツアー。写真をSNSでの提供。婚活ツアーは出会いの場、記念の場にもなる。

[石徹白地域づくりカレッジ] ステップアップシステムの仕組み。イベントを通年のプログラムに組み込む。

分科会 2. ものづくりを通して岐阜の素材を生かす活動

コーディネーター

- ・小野敦 (NPO 法人グリーンウッドワーク協会)
- ・長沼慶拓 (岐阜県)

ゲスト：入江鐵夫 (行燈工房)、栗谷元征二 (栗くり工房)、小木曾賢一 (森林たくみ塾)、野村純也 (株式会社郡上割り箸)、酒井慶太郎 (酒井産業株式会社)、浅野美香子 (NPO 法人岐阜県木育推進協議会)

[発表]

■入江鐵夫 (行燈工房)

- ・岐阜県産の長良スギと手すきの美濃和紙を使い、京指物の技術で行灯を制作。
- ・どこにも持っていける
- ・美意識 ⇒求めるもの
- ・江戸指物と京指物とある ⇒岐阜は「京指物」

■浅野美香子 (NPO 法人岐阜県木育推進協議会)

「ものづくりによる地域おこしの可能性」

- ・いい木を探す
- ・地域を活かしたおもちゃづくり
 - ☆県産材・今須杉 (関ヶ原町) ⇒木のおもちゃセット試作品完成。
 - 特徴) 今須杉を使用、地元の作家さんデザイン。
 - 武将の家紋を積み木に焼き印。オリジナリティあり。
 - ☆かき (大野町)
- ・何人もの手を通して愛情がこもっている。⇒作るだけではなく人材育成にも繋がる。
- ・地域の特徴を生かし物づくりで伝えていく。

■栗谷元征二 (栗くり工房)

- ・まず作ってみる！やってみる！⇒物づくり・鼻ぶえなど色々な木のふえづくり
- ・1200人ぐらいの人が木育を受けている。
- ・中津川の行政に基づいて活動している。

「中津川アウトドアマルケ」

⇒地域おこし。若手の職人が集い各自の特性を生かした体験講習等。
物づくりだけでなく、みんなで繋がっている。

分科会3 『指導者・ガイドのプロ化』

コーディネーター

北川健司 中部山岳ガイド協会
山田俊行 トヨタ白川郷自然学校

ゲスト 岩佐勝美 飛驒の森ガイド協会

2016年8月に立ち上げたばかりの団体
小坂の滝めぐり、五色が原、天生を中心にしてガイドをしている
プロで食べていけない 特に冬 → 何とかしなくてはならない
飛驒の森というブランドを作っていく、守っていく

ゲスト 蟻原陽一 白山白川郷トレイルクラブ

2013年立ち上げ
行政、ガイド、猟師で構成
ロングトレイル事業のコース整備を行っている
100kmもの各集落を結んでいたコースの復活を目指している

ゲスト 石際 淳 中部山岳ガイド協会

2016年に20周年を迎えた
会員は45名くらい
実は岐阜出身のガイドは少ない
60代のガイドもいるが、若い世代の台頭もある

ゲスト 岩佐勝美 飛驒の森ガイド協会

2016年8月に立ち上げたばかりの団体
小坂の滝めぐり、五色が原、天生を中心にしてガイドをしている
プロで食べていけない 特に冬 → 何とかしなくてはならない
飛驒の森というブランドを作っていく、守っていく

ゲスト 蟻原陽一 白山白川郷トレイルクラブ

2013年立ち上げ
行政、ガイド、猟師で構成
ロングトレイル事業のコース整備を行っている
100kmもの各集落を結んでいたコースの復活を目指している

ゲスト 石際 淳 中部山岳ガイド協会

2016年に20周年を迎えた
会員は45名くらい
実は岐阜出身のガイドは少ない
60代のガイドもいるが、若い世代の台頭もある

飛驒山岳ガイド協会

高山飛驒地方の飛驒山岳会が作った会
槍ヶ岳・穂高のガイドが主
日本山岳ガイド協会員が1000人を超えた
その1000人のうちプロとして食べているのは、おそらく100人くらいであろう
兼業のガイドが多い
食べているガイドのほとんどが山岳ⅡもしくはⅠを持っている



登山家、プロの山岳家は違う
登山家は仲間が死んでも責任はないが、プロは責任がある
山の考え方も違う
一般人には同じであると誤解されている

地域を知った、地域ガイドとしての活動が大事になってくる
どれだけ深く地域のことを知るかが、ガイドの力になる
5年前くらいから各地で地域山岳会ができ始めている
地域ガイドよりも資格を持っているガイドの需要があるため
ガイド登山の遭難・事故が目立ってきた
客がガイドを選ぶときに、資格が物差しになる

岩佐勝美氏

なぜ活動をしているか
住民が減ってきている
9割が山林で素晴らしい自然がある
地域に人がいなくなったら、獣害が懸念され自然が保たれない
そのために地域振興が大事
ガイドという職業の選択肢が増える
ガイドには人と森をつないでいく役割がある

■質疑応答

質問

客のリスクに対する保険
船舶の保険、自然体験活動の保険
保険にかかる金額の割合は

回答

中部山岳協会として保険に入っている
7万円の賠償責任保険 1億円
傷害保険 300円くらい
年間契約で入って後払い
山岳では共済もある
個人では賠償保険は入れない
エコツーリズムセンターの保険

質問

ツアーの顧客層が知りたい

回答

登山ショップでの情報
山ガールブーム後、どんどん減っている
30～50代が多い
山は行きたいけれど、一緒に行く人がいない

飛驒の森では、圧倒的に中高年女性
年とともに中高年層も減ってきてはいる
山ガールブームで新規の層も増えてきている
ファミリーも増えている実感がある

小坂滝巡りでは、人数は減っている
バス旅行社は激減した
個人旅行者若い層をターゲットにしている
インバウンドに期待

自然学校では、ファミリー、夫婦、インバウンド
冬は若い層が多い
夏山は圧倒的に中高年が多い
冬山は中高年の他に若い層も少しずつ目立ってきた

カヌー体験では
初心者をターゲットにシットオンカヌーツアーを売っている
8割方ファミリー

ラフティングは20代前半
シャワクラは20代後半
山はライフスタイルを重視した客層で宿泊込みの中高年

頂上を目指す登山は日本と台湾のみ
欧米はピークを目指さない登山がほとんど
トレッキング、フットパスなど、「歩く」ことに注目が集まっている
九州のフットパスでは地域の人が整備して、大ブームになっている
高島トレイル 信越トレイル が成功している

バスツアーにもガイドの需要がある
東海自然歩道にもガイドがつく
顧客は「歩く」品質を求めている
森のガイドは今注目

女性客は共感を求めている

自然ガイドと登山ガイドの仕事は違う
ガイドのレベルに高い低いはない
フィールドの違いでしかない

分科会4. 子どもたちの自然体験を進める活動

コーディネーター:高屋良平(NPO 法人エヌエスネット)、
河合高志(岐阜県恵みの森づくり推進課)

ゲスト 高見美茶(だんごむし)、浅野純一(大垣プレイパーク)、
村瀬典康(環境教育事務所エム企画工房)、
千葉篤志(ガイアニック)、()



「森のようちえん」の活動を中心に様々な形で自然の中での子育てを行っているいくつかの団体の活動発表がありました。

成り立ちもいろいろな形があり、行政との連携(大垣プレーパーク、環境教育事務所エム企画工房)、環境教育のから立ち上がったもの(もりのだんごむし、みのプレーパーク)、「森のようちえん」に関心を持ったお母さんたちが立ち上げたものなど多様な形で展開しているところにこうした活動の新鮮さと可能性が感じられます。

形態的には①通年で保育を行う通年型、②普通の幼稚園や保育所が行う融合型、③任意団体が実践する行事型に分けられます(ぎふ☆森のようちえん初音美奈さん)。大垣プレーパークは大垣公園でスタッフが常駐して、「子どもの居場所」を提供しています。大垣市のバックアップもあって、都心の真ん中で子どもたちの公園の自然遊びをサポートしています。ここで注目されるのが、市民活動としての森の幼稚園。保護者が交代で当番をしながら、子どもたちの面倒を見合うのが「自主保育」。積極的に保育に関わることで、子どもたちへの良い刺激になると同時に、保護者自身の成長、交流の場にもなります。一般市民のボランティアですが、元職・現職の幼稚園教諭や保育士さん、大学教員、自然に詳しいインタープリターと呼ばれるかたが、子どもの活動を見守っています。「みのプレーパーク」は、元々アカデミーの学生の課題研究(卒論)として始まりました。周りに山がある岐阜市で育ちながら、親からいつも「山は危ないからダメ!」と言われ自由に遊べなかった子ども時代を持つ学生が、「今の子どもには、自分でやりたいことをやれる場所が必要!」「せっかく身近にある山や森でもっと遊んで欲しい!」という思いからアカデミーの敷地内で実践をはじめたので、今では地域にしっかり定着します。「森のようちえん」へのお母さんや、学生や、地域住民の関りは子どもたちの自主的な詩ぜな曾比をサポートするだけでなく、自分たちにとっても出会いと学びの場になっていることがわかりました。

ふりかえり・まとめ

第一分科会 田村

岐阜農林の学生が参加してくれた。

ゲストの反応が良かった。

発表後のコメントがあり参加者は理解しやすかった。

平日開催で狙いを持ってきている人が多かった。

会場を巻き込む感じがもっとあるといい。

第二分科会 小野

生産者が多かった

体験活動をやっている人

材料にはこだわってる

ものづくりで地域を

第三分科会 北川

第四分科会 河合

自分の活動が腑に落ちていく

日常では会えない人に出会える

ここに来ると会える

参加団体

大きな木自然塾	岐阜市
岐阜県観光連盟	岐阜市
山菜の里いび	岐阜県
特定非営利活動法人長良川自然学校	岐阜市
有限会社EAT&LIVE	郡上市
山と川の学校	郡上市
郡上八幡自然園	郡上市
トランジションタウン岐阜ファミリー	郡上市
猪鹿庁	郡上市
石徹白地域づくり推進協議会	郡上市
風と土の会	岐阜市
長良川環境レンジャー協会	岐阜市
達目洞自然の会	岐阜市
生命の水と森の活動センター	揖斐郡揖斐川町
やまがた舎 やまがた楽しいプロジェクト	山県市
Permaculture-TUBE	関市
河川環境楽園	各務原市
Sekigahara project 地域交流カフェ はびりす	不破郡関ヶ原町
関が原エコミュージアム	不破郡関が原町
特定非営利活動法人緑の風	大垣市
結の舟 / yui no fune 岐阜清流オフィス	各務原市
NPO 法人ふれあいの森自然学校	各務原市
飛騨山岳ガイド協会	高山市
森林たくみ塾	高山市
オークビレッジ森の学校	高山市
飛騨インタープリター協会	高山市
ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会	高山市
特定非営利活動法人おたまくじゃくしの星	高山市
新穂高ロープウェイビジターセンター 山楽館	高山市
有限会社中尾温泉	高山市
乗鞍国際観光株式会社	高山市
有限責任事業組合五色ヶ原の森運営共同事業体	高山市
ネイチャーグレイスうたてい	高山市
特定非営利活動法人 ひだ位山ふるさと学校	高山市
栗くり工房	中津川市
一般社団法人中津川観光協会	中津川市
岐阜県シェアリングネイチャー協会	中津川市
南飛騨健康増進センター(南ひだ健康道場)	下呂市
赤カブ自然学校	下呂市
飛騨 御嶽山ジオパーク認定準備委員会	下呂市
御嶽山 五の池小屋	下呂市
NPO 法人飛騨小坂 200 滝	下呂市
特定非営利法人飛騨市・白川郷自然案内人協会	飛騨市
株式会社美ら地球	飛騨市
根の上高原観光保勝会	恵那市
NPO 法人福寿の里自然倶楽部	恵那市

後記

今回はこれまで週末の開催でなかなか参加できなかった団体(指導者)に来ていただけるように初めての平日開催となりました。昨年は初めてメディアコスモスを開催場所としてたくさんの一般の方の参加を得ました。岐阜県内の自然体験活動を広く知ってもらいたいという意味では成功でしたが、本来この集いは県内の自然体験指導者の連携と情報共有を目指して立ち上がったものです。したがって、今回この集いに関心をもって参加された一般の方の中には内輪の話で内容がよくわからないという感想もありましたが、本来の趣旨を理解して了解していただきたいと思います。そういった中での時間と場所の制約のもと時間不足で議論や意見が尽くされていないという意見もありましたが、テーマを絞った4つの分科会での話し合いはいずれも中身の濃い(そのためもっと時間が欲しい)ものとなりました。今回の特筆すべきこと。ひとつは先生に引率されて岐阜農林高校の生徒さんが来てくれたこと。参加してくれた分科会1<岐阜の宝を活かした活動>の発表内容は少し高度で理解できなかったこともあるようですが、県内で若い人たちが岐阜の自然資産を生かした独自の活動を進めていることは彼らにも刺激になったと思います。もう一つは「森のようちえん」の活動。これまでも集いは専門的な体験活動の指導者が中心になりがちで参加者の年齢層が高くなっていく傾向がありましたが、今回は自然体験活動の「素人」のお母さんたちも広く参加して取り組んでいるという新しい動きに自然体験活動の未来を感じました。

多くの人の要望に応じた多くの人に参加できる時期と時間、そして場所を設定するのに完全なものを求めることはできません。行き当たりばったりの感もありますが、毎回新たな課題を見つけて試行を重ねています。その中で新しい動きや若い人たちのパワーが感じられるならば幸せなことです。「川と山のぎふ自然体験活動の集い」はまだまだ続きます。(記 事務局 高屋)

第12回 川と山のぎふ自然体験活動の集い報告書

発行 2017年4月30日

山と川のぎふ自然体験活動の集い実行委員会
事務局

岐阜県岐阜市月丘町5丁目13番地
特定非営利活動法人エヌエスネット内

TEL 058-249-1166

編集責任者 高屋 良平